

次世代を担う研究開発

R&D Leading the Next Generation

藤崎 晃*
Akira Fujisaki



古河電工グループは、2024年に創業140年を迎え、新たに古河電工グループパーパス「『つづく』をつくり、世界を明るくする。」を制定しました。このパーパスには、創業以来磨き続けてきた技術力と提案力を強みとし、様々な社会課題に向き合い、挑戦することで、より良い未来へとつながる「つづく」を作ることが当社グループの存在意義であるとの思いを込めています。これまで当社グループは、メタル・ポリマー・フォトニクス・高周波という4つのコア技術を基盤とし、強みとして磨いてきました。これらは数々の世界初、世界一の製品開発に生かされてきています。

昨今、爆発的な成長を遂げている生成AI市場、当社グループの情報関連製品・サービスは、これを支えるインフラとして活躍しています。生成AIの急激な進化は、データトラフィックを加速度的に増大させており、次世代に求められる情報通信ネットワークは、大容量化はもちろんのこと、低消費電力化、低遅延化などが求められます。光電融合技術や空孔コアファイバは、この社会課題解決に大きく貢献していく技術です。

カーボンニュートラルの実現に向けて、当社グループは、他社に追随を許さないメタル技術を有しており、中

でも銅合金に対する優れた組織制御技術は、お客様からも高い評価をいただいています。また、この技術・知見をアルミ合金に適用した高強度アルミ技術は、モビリティの軽量化に貢献していきます。

温室効果ガス排出削減の取組の一環として、バイオマス材を使いこなす技術に着目したのがセルロース繊維強化樹脂「CELRe®」です。ケーブル製造で培ってきた樹脂混練技術、分散配合プロセスにより、低コストで強度と耐衝撃性を両立しながら、リサイクル性能も担保しました。

当社の材料技術は、金属触媒にも応用しています。グリーンLPガス生成技術は、グリーンイノベーション基金の援助を頂きながら北海道鹿追町に実証試験プラントを昨年8月に起工し、社会実装への準備を進めています。

本号でご報告する活動内容をさらに幅広く発展させるためには、産官学の幅広い共創、さらにはステークホルダーの皆様との連携は欠かせません。本号を手にとられた方が、当社グループに興味をお持ちいただき、将来に向けて一緒に取り組みたいと共感いただけたら、これに勝る喜びはありません。「『つづく』をつくり、世界を明るくする。」の実現に向けて、当社グループと一緒に取り組みましょう。

* 執行役員 研究開発本部長